

たかおかみちといせき  
高岡麓遺跡第37地点

街なみ環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書



2015

宮崎市教育委員会

宮崎市文化財調査報告書 第105集

た　か　　お　か　　ふもと　　い　　せ　き  
**高岡麓遺跡第37地点**

街なみ環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015

宮崎市教育委員会





## 序 文

本書は、高岡町域の街なみ環境整備事業に伴い、平成25年度に実施された高岡麓遺跡第37地点の発掘調査報告書です。

第37地点という今次報告の名称が示すとおり、宮崎市の中でも当地域は開発に伴う発掘調査が多い地域の一つです。今回の調査でも、高岡麓に関する近世の遺構や陶磁器などが出土しました。

これらの調査成果は、この地域の歴史を知るうえで貴重な資料であり、今後、学校教育や生涯学習など、市民の方々に大いに活用して頂けることを期待します。

最後に、この調査を実施するにあたり、ご理解並びにご協力を賜りましたことを、地元の皆様や各関係者の方々に対しまして、心から感謝申し上げます。

平成27年3月

宮崎市教育委員会  
教育長 二見俊一



## 例　言

1. 本書は街なみ環境整備事業に伴い宮崎市教育委員会が平成25年度に実施した高岡麓遺跡第37地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は平成26年2月3日～平成26年3月4日の期間実施した。
3. 調査組織

調査主体　宮崎市教育委員会

### <平成25年度>

調　　査　総　括　課　　長	橋口　一也
課　長　補　佐	山田　典嗣
埋蔵文化財係　副主幹兼係長	島田　正浩
調査調整・事務　主　　査	鳥枝　誠
主　　査	秋成　雅博
調　　査　主　　査	鳥枝　誠
嘱　　託	川野　誠也

### <平成26年度>

調　　査　総　括　課　　長	橋口　一也
課　長　補　佐	日高　貞幸
埋蔵文化財係　副主幹兼係長	島田　正浩
調査調整・事務　主　　査	鳥枝　誠
主　　査	秋成　雅博
整　理　作　業　主　　査	秋成　雅博
嘱　　託	川野　誠也
嘱　　託	小牟田　智子

4. 掲載した図面の実測・製図・図版の作成は、川野・小牟田が行なった。
5. 遺物写真および現場の写真撮影は川野が行なった。
6. 本書で使用した土層の色調は『新版 標準土色帖』の土色に準拠した。
7. 地図及び図面上の方位は真北とする。
8. 遺構の略名は、SC（土坑）、SE（溝状遺構）、SH（ピット）としている。
9. 発掘調査により出土した遺物および記録資料等は宮崎市教育委員会で保管している。資料の閲覧・利用等に関しては事前に宮崎市教育委員会までお問い合わせ頂きたい。
10. 本書の執筆および編集は、川野が行なった。



## 本文目次

第Ⅰ章 はじめに	
第1節 調査に至る経緯.....	1
第2節 遺跡の立地と歴史的環境.....	1
第3節 調査の経過.....	3
第Ⅱ章 調査の成果	
第1節 基本層序.....	4
第2節 遺構と遺物.....	4
第Ⅲ章 まとめ.....	12

## 挿図目次

第1図 調査区周辺主要遺跡分布図 (1/25,000) .....	2
第2図 高岡麓遺跡本調査地点位置図 (1/10,000) .....	3
第3図 基本土層模式図.....	4
第4図 遺構配置図 (1/80) .....	5
第5図 SC1実測図 (1/20)、出土遺物実測図 (1/2) .....	6
第6図 SC4実測図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/3) .....	6
第7図 SC5実測図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/3) .....	7
第8図 SE3実測図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/3) .....	8
第9図 SE3出土遺物実測図 (1/3) .....	9
第10図 SE3出土遺物実測図 (1/3・1/2) .....	10
第11図 その他の遺構等出土遺物実測図 (1/3) .....	10

## 表目次

第1表 出土遺物（陶磁器等）観察表.....	11
第2表 出土遺物（瓦）観察表.....	12
第3表 出土遺物（石製品等）観察表.....	12
第4表 出土遺物（金属製品等）観察表.....	12



## 図 版 目 次

図版1 調査区全景（南西から）、SC4完掘状況（南東から）、SC5半截状況（東から）、 SE3土層堆積状況（西から）、SE3完掘状況（東から）	13
図版2 出土遺物(1).....	14
図版3 出土遺物(2).....	15



## 第Ⅰ章 はじめに

### 第1節 調査に至る経緯

平成24年10月22日、宮崎市都市整備部都市計画課より、街なみ環境整備事業にかかる中村東2号線道路美化工事に伴い、高岡町内山字中村2869-2番先地における文化財の有無の照会が、文化財課に提出された。これを受け、当該地区が周知の埋蔵文化財包蔵地「高岡麓遺跡」であることから、埋蔵文化財の有無を確認する確認調査が必要であると回答し、平成25年2月8日に道路新設区間を対象として、確認調査を行った。

調査の結果、溝状構造、柱穴が検出され、近世の陶器片が出土し、2月18日付け文書で確認調査の結果、並びに今後、埋蔵文化財の取扱いに関する協議が必要である旨を都市整備部長あてに回答した。

その後、文化財課と都市計画課との間で協議を重ね、平成26年1月以降に本調査に着手し、年度内に調査を終了することで合意した。

発掘調査は、平成26年2月3日から平成26年3月4日までの間、実施した。調査面積は、68m<sup>2</sup>である。

### 第2節 遺跡の立地と歴史的環境

本書に報告する高岡麓遺跡が所在する宮崎市高岡町は宮崎市の西部、海岸部の平野から九州山地へと続く内陸丘陵の入り口に位置する。町の中央を蛇行しながら大淀川が東流し、それにより河岸段丘、狹小な沖積地が形成され、その東側に広がる宮崎平野を一望する。本遺跡は大淀川と飯田川に挟まれた沖積地に位置し、旧飯田川を東端、浜子地区を北端、大淀川川岸を南端とする海拔12~17mの広範囲に広がる遺跡である。

また、周辺にも数多くの遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は、宮崎市内で最古となる姶良大塚火山灰層下層から石器群が出土した高野原遺跡、A T下位の石刃技法の接合資料が出土した水迫第1遺跡、剥片尖頭器が多数出土した高浜中原遺跡など、この高岡麓遺跡から大淀川を挟んだ南側に広がる台地上で多く調査されている。また、小林市との境界付近に広がる台地でも、茶園原遺跡や小田元第2遺跡などがある。

縄文時代の遺跡は、早期では抉状耳飾が出土した水迫第2遺跡、黒曜石剥片等が多く出土した橋山第1遺跡、八久保第2遺跡、天ヶ城跡、久木野遺跡などがある。高岡町域の早期の遺跡は、中原遺跡、永迫第1遺跡、橋山第2遺跡なども含め、広く台地上に存在している。中期から後期にかけては、橋山第1遺跡や橋山第2遺跡が高岡麓遺跡の東側に広がる台地上にある。大淀川を挟んだ南側の台地では、山子遺跡で土器が表採されている。また、微高地に立地する遺跡として、糸魚川産ヒスイ製勾玉が出土した晩期の学頭遺跡がある。

弥生時代、古墳時代の調査例は少なく、弥生時代の遺跡では丹後堀遺跡、学頭遺跡で住居跡が確認されている。古墳時代の遺跡は、八見遺跡で集落跡が、久木野地下式横穴墓で6世紀前半の地下式横穴墓4基が調査されている。また、詳細は不明だが、県指定史跡の高岡町古墳があり、その周辺から土器と鉄製品が出土している。

## 第1節 はじめに



第1図 調査区周辺主要遺跡分布図 (1/25,000)

### 第3節 調査の経過

調査は、2月3日にバックホウを使って調査区の表土剥ぎを行なった。2月4日から作業員による遺構検出で土坑、柱穴、溝状遺構を確認し、これらの遺構掘削を開始した。これらの遺構からは近世の陶磁器や鉄製品などが出土した。

記録作業は、2月5日から遺構の写真撮影、遺構実測、全体測量を開始し、3月2日まで行なった。3月3日に調査区の全景写真撮影を行い、器材の撤収作業を行なった。3月4日にはバックホウによって調査区の埋め戻しを行ない現地での調査を終了した。



第2図 高岡麓遺跡本調査地点位置図（1/10,000）

## 第Ⅱ章 調査の成果

### 第1節 基本層序

高岡麓遺跡第37地点における基本層序は、以下の通りである。(第3図を参照)

1は(Hue10YR5/2 灰褐色)表土層である。締りが強く砂利を多量に含む。2は整地層で、締りが強く炭化物を少量含む層(Hue10YR4/2 暗黄褐色)である。3は近世の包含層であり、締りがやや強く粘性があるシルト質ローム層(Hue10YR5/1 褐色)である。4はその上面が遺構検出面となる層(Hue7.5YR4/6 黄褐色)である。締りがやや強く粘性がある。5は締りがやや強く炭化物を微量に含むローム層(Hue10YR5/2 灰褐色)である。



第3図 基本土層模式図

### 第2節 遺構と遺物

#### 土坑1 (SC1)

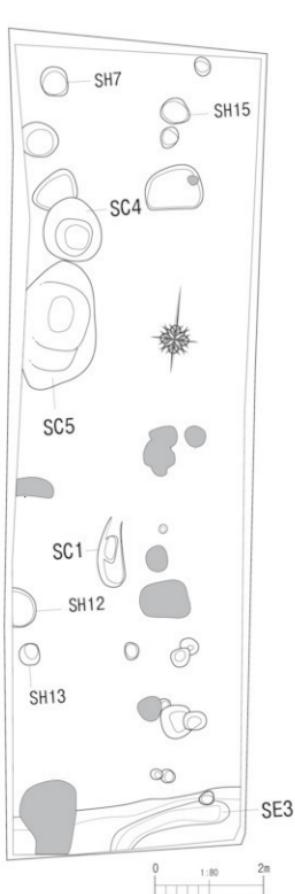
この遺構は、調査区の南に位置する土坑(第5図)である。平面プランは長軸1.2m、短軸0.5mの不整形な楕円形で、中央部に浅い落ち込みをもつ。遺構の深さは0.1m~0.15m程度である。埋土は、土層観察によれば、最初に3層にぶい黄褐色ロームが遺構全体に浅く堆積し、その後遺構中心部が堆積する。ただ、3層が堆積後に中心部が削平を受け、その後に1層と2層が堆積したとも考えられるが、遺物からは判断できなかった。遺構の性格は不明であるが、時期は19世紀後半以降と考えられる。

遺物は銅鏡(第5図 No1)が出土した。鏡は強いが、表に「半錢」、裏に「明治二十年」とある。

#### 土坑4 (SC4)

この遺構は、調査区の北に位置している土坑(第6図)で、形状等から井戸と思われる。平面プランは直径約1.0mの円形で、上部を後世の削平により喪失しており、残存部は検出面から深さ1.0m程度である。約0.3mほど掘り下げた時点で壁面から水が湧き出す状況であった。底部には砂利敷などの遮過装置はみられない。埋土は、土層観察によれば、4層の黄褐色シルト質ロームが遺構全体に深く堆積するが、西側では4層が1層もしくは3層の堆積前に削平を受ける。時期は出土遺物から18世紀後半以降と考えられる。

遺物は磁器碗、陶器の香炉・火入類、培塿など(第6図 No2~No5)が出土した。2は18世紀後半から19世紀代の肥前系染付碗である。外面に二重の團線がみられる。3は18世紀後半代の肥前系染付碗で、高台内面に銘款が入る。4は外面に刷目文様が入る肥前系の香炉・火入類で、17世紀後半と思われる。5は培塿と思われるが、時期は不明である。



第4図 遺構配置図 (1/80)

薩摩の染付小碗である。淡い青が霞んだような文様がある。11は肥前系の染付碗である。表面に圓線が巡る。12は18世紀後半の長崎県波佐見の青磁染付筒形碗である。外面は淡青緑色で、

### 土坑5 (SC5)

この遺構は、調査区の北に位置している土坑（第7図）で、形状等から井戸と思われる。平面プランは長軸2.0m、短軸約1.5mの楕円形で上部を後世の削平により喪失しており、残存部は検出面から深さ1.8mである。約1.1mほど掘り下げた時点で壁面から水が湧き出す状況であった。南側にはテラスを持つ。埋土は、土層観察によれば、まず5層が北側からの流入により堆積する。その後、4層が全体に堆積し、2層は北側からの流入により堆積する。土坑4と同様、底部には砂利敷などの濾過装置はみられない。時期は出土遺物から19世紀以降と考えられる。

遺物は磁器の碗と小杯（第7図 No6～No9）が出土した。6は、19世紀代の肥前系染付小碗である。外面に竹文様、見込に蛇の目釉剥ぎが認められる。7は、19世紀代の肥前系染付碗である。8は、18世紀代の肥前系染付丸碗である。9は、18世紀後半から19世紀代の肥前系小杯である。

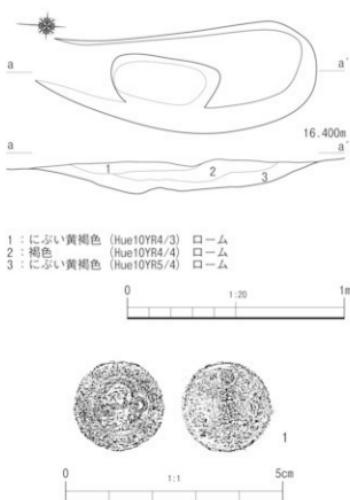
### 溝状遺構 (SE3)

この遺構は、調査区の南端に位置し、東西に延びている溝状遺構（第8図）である。上部を後世の削平により喪失しており、残存部は深さ0.1m～0.2mである。遺構全体を確認することはできなかったが、ほぼ直線的に延びた形状から溝状遺構と判断した。床面に「L」字状に緩やかに曲がる落ち込みをもつが、そこからの遺物は確認されていない。埋土は1層のみである。遺構の時期は19世紀以降と考えられる。

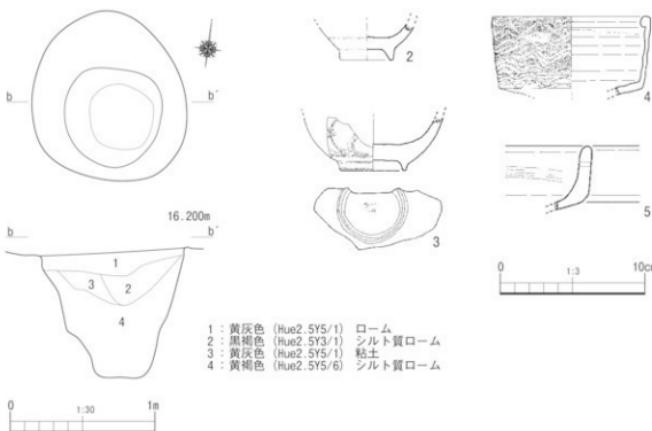
遺物は碗、皿、小杯、猪口、蓋、鉢、壺、そして香炉、瓶などの袋物、擂鉢、硯などの石製品、鉄製品など（第8図No10～No25、第9図No26～No49、第10図No50～No54）、多数の遺物が出土した。10から23は磁器である。10は19世紀の

見込みに五弁花文が施される。13は18世紀前半の染付筒形碗である。14は19世紀代の瀬戸・美濃系染付端反碗である。16から19は肥前系の染付皿である。16は19世紀代で源氏香文を施す。17は17世紀前半である。18は山水楼閣文を施す。19は輪花皿で口紅を施す。22と23は波佐見産と思われる。22は18世紀前半の青磁の香炉・火入類である。

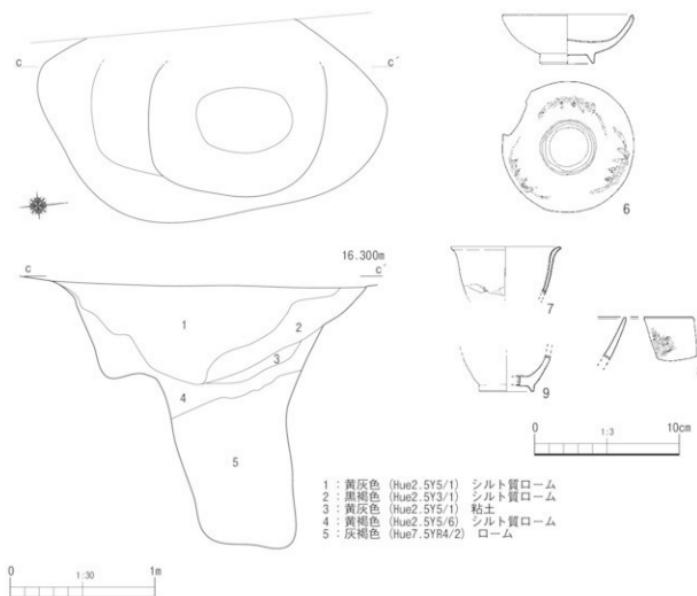
24から48は陶器である。24は18世紀後半から19世紀代の肥前系丸碗で、梅樹文を施す。25から35(27と31は除く)は、17世紀後半の肥前系の碗である。25は銅緑釉が掛かる。26と27は端反碗である。27は胎土がぼさっとした感じで、瀬戸・美濃系のものに似ている。29と33は、表面に刷毛目文を施す。碗の施釉は、31から33は疊付には施されない。37は17世紀後半の肥前系小碗で鉄釉を施す。釉は胴部下位まで施さ



第5図 SC1実測図(1/20)、出土遺物実測図(1/2)



第6図 SC4実測図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/3)



第7図 SC5実測図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/3)

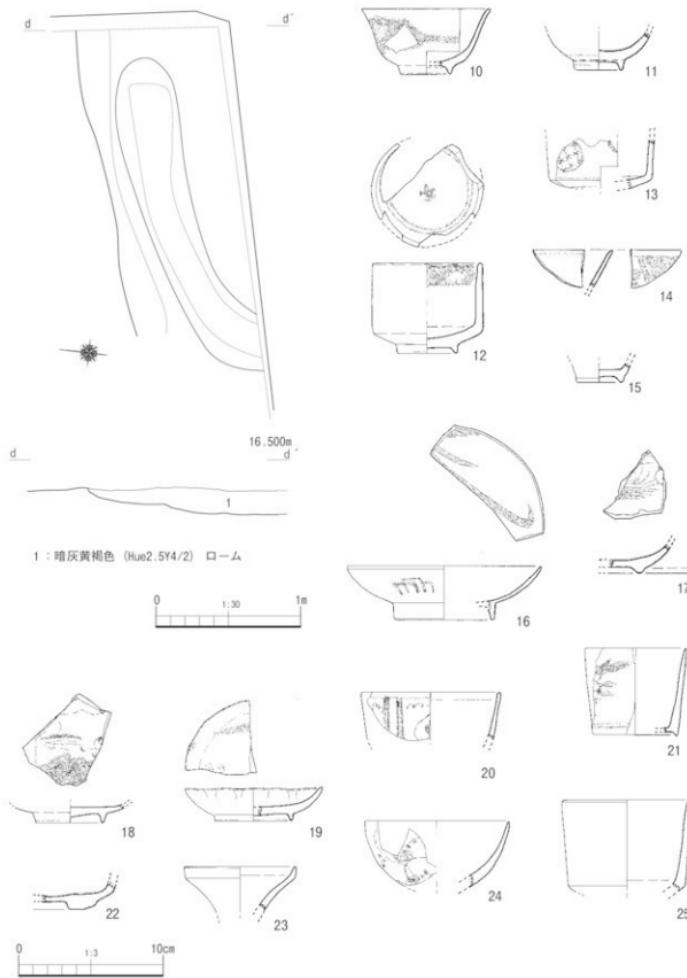
れ、高台にも部分的に確認される。38は薩摩苗代川系、39は関西系の擂鉢である。40は薩摩苗代川系の鉢で貼付突帯をもつ。植木鉢の可能性がある。43は薩摩苗代川系の土瓶の注口部分である。45は薩摩の、所謂「山じょか」の蓋である。46と47は瓶と思われるが、同一個体ではなかろうか。

石製品は50と51がある。50は硯であるが、頭部面に加工痕があることから二次転用された可能性がある。金属製品は52から54である。53と54は鉄製の鎌である。

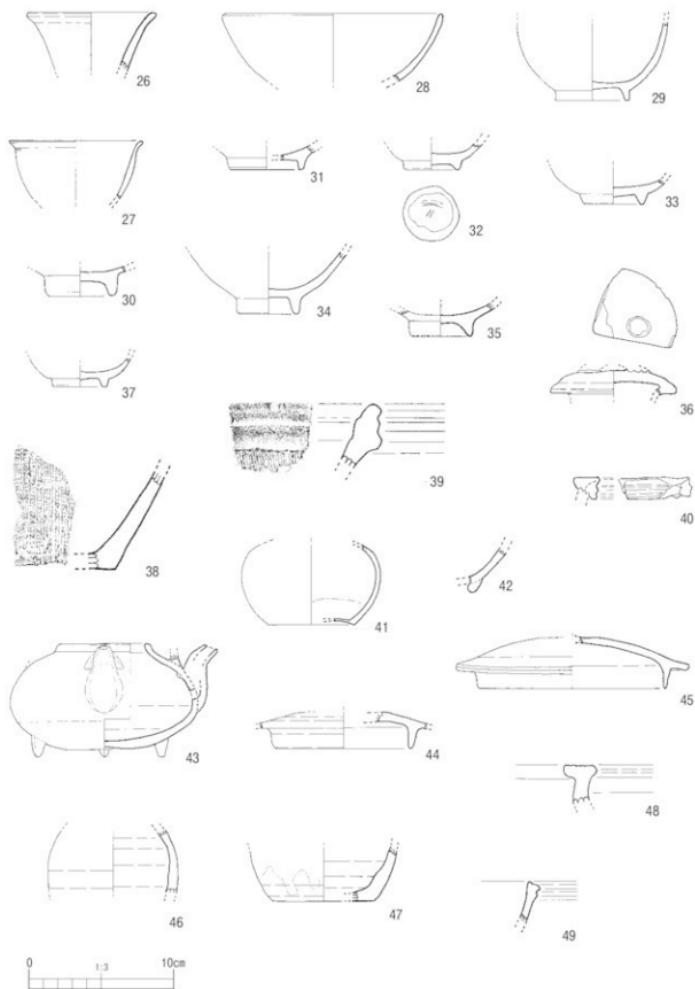
#### その他の遺構と遺物 (SH)

その他の遺構としては、直径約10から30cmの規模のピットが19基検出された。

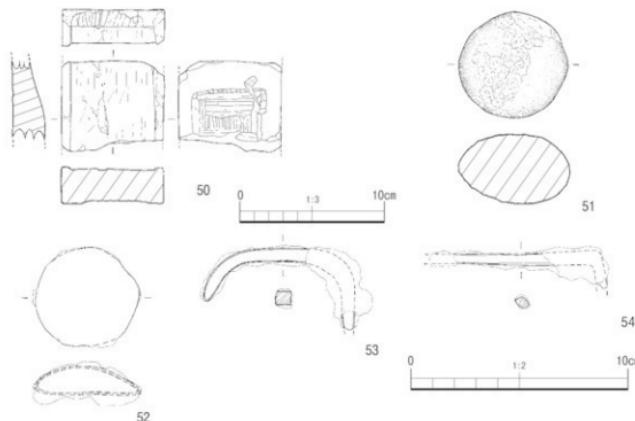
遺物（第11図No55～No59）は、少量ではあるが出土している。55は瓦で、表裏面にミガキ痕が認められる。56と57は18世紀から19世紀の薩摩苗代川系の茶瓶である。58は、近・現代である。



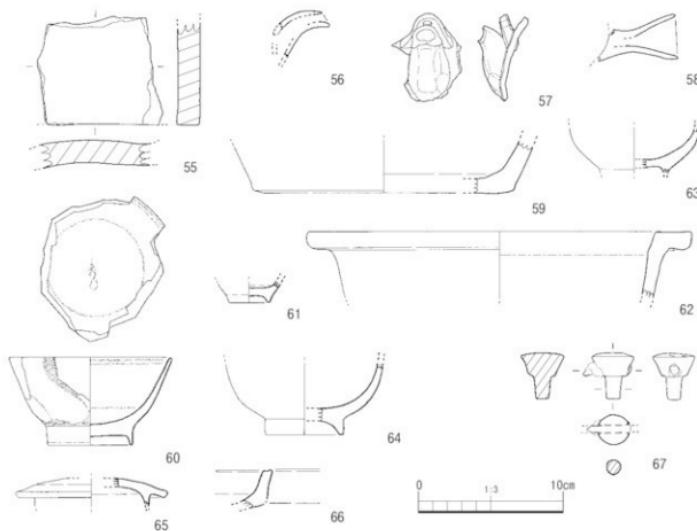
第8図 SE3実測図 (1/30)、出土遺物実測図 (1/3)



第9図 SE3出土遺物実測図（1/3）



第10図 SE3出土遺物実測図 (1/3・1/2)



第11図 その他の遺構等出土遺物実測図 (1/3)

第1表 出土遺物（陶磁器等）観察表

No	種別	器種	出土遺構等	法量			产地	時期	その他
				口径	底径	器高			
2	磁器	碗	SC4	—	3.6	—	肥前系	18c後半～19c	染付 外面に2重の團線
3	磁器	碗	SC4	—	4.4	—	肥前系	18c後半	染付 高台裏に鉢款
4	陶器	香炉・火入	SC4 (10.4)	—	—	肥前系	17c後半	刷毛目文	
5	土師器	培塔	SC4	—	—	—	—	—	
6	磁器	碗	SC5	8.9	3.7	3.4	肥前系	19c	小碗、染付 見込鉢/日輪調ぎ
7	磁器	碗	SC5 (7.6)	—	—	—	肥前系	19c	染付
8	磁器	碗	SC5	—	—	—	肥前系	18c	丸碗、染付
9	磁器	小杯	SC5	—	(3.7)	—	肥前系	18c後半～19c	
10	磁器	碗	SE3 (8.8)	(3.4)	4.5	—	薩摩	19c	染付
11	磁器	碗	SE3	—	3.3	—	肥前系	18c後半～19c	外面に1重團線、高台に2重の團線
12	磁器	碗	SE3	7.4	4.1	6.2	佐伯見	18c後半	鷲形碗、青磁染付、2重の團線
13	磁器	碗	SE3	—	—	—	肥前系	18c前半	鷲形碗、染付
14	磁器	碗	SE3	—	—	—	瀬戸口・美濃	19c	瀬戸碗、口唇部内面に1重の團線
15	磁器	小杯	SE3	—	3.1	—	肥前系	19c	
16	磁器	皿	SE3 (13.2) (6.6)	3.7	—	—	肥前系	19c	染付、源氏文
17	磁器	皿	SE3	—	—	—	肥前系	17c前半	染付
18	磁器	皿	SE3	—	4.6	—	肥前系	19c	染付 山水樓閣文
19	磁器	皿	SE3 (9.5) (5.3)	2.3	—	—	肥前系	19c	染付、口紅、輪花皿
20	磁器	蓋付鉢	SE3 (9.4)	—	—	—	肥前	18c後半～19c	染付
21	磁器	猪口	SE3 (6.8) (5.7)	6.0	—	—	肥前	18c前半～中頃	染付
22	磁器	香炉・火入	SE3	—	—	—	佐伯見	18c前	青磁、蓋付蛇/日輪調ぎ
23	磁器	仏花瓶	SE3 (7.7)	—	—	—	佐伯見	18c	
24	陶器	瓶	SE3 (10.0)	—	—	—	肥前系	18c後半～19c	丸碗、梅樹文
25	陶器	碗	SE3 (8.8)	—	—	—	肥前	17c後半	銅錢釉
26	陶器	碗	SE3 (8.6)	—	—	—	肥前	17c後半	羅反碗
27	陶器	碗	SE3 (9.2)	—	—	—	不明	不明	羅反碗
28	陶器	碗	SE3 (15.2)	—	—	—	肥前	17c後半	
29	陶器	碗	SE3 — (5.2)	—	—	—	肥前	17c後半	刷毛目文
30	陶器	碗	SE3 — 4.8	—	—	—	肥前	17c後半	
31	陶器	碗	SE3 — (5.0)	—	—	—	不明	不明	
32	陶器	碗	SE3 — (3.8)	—	—	—	肥前	17c後半	
33	陶器	碗	SE3 — (3.9)	—	—	—	肥前	17c後半	刷毛目文
34	陶器	碗	SE3 — 4.0	—	—	—	肥前	17c後半	
35	陶器	碗	SE3 — 4.0	—	—	—	肥前	17c後半	
36	陶器	蓋	SE3 — 基部径 (8.7)	—	—	—	不明	不明	
37	陶器	小碗	SE3	—	3.6	—	肥前	17c後半	鉄軸
38	陶器	植鉢	SE3	—	—	—	薩摩	18c～19c	
39	陶器	植鉢	SE3	—	—	—	四内系	18c後半～19c	
40	陶器	植木鉢?	SE3	—	—	—	薩摩	18c～19c	貼付突帶
41	陶器	急須	SE3 — (6.0)	—	—	—	—	近・現代	二次被熱直
42	陶器	土瓶	SE3	—	—	—	薩摩	18c～19c	脚付き
43	陶器	土瓶	SE3 (6.3) 最大長 14.4	7.8	—	—	薩摩	18c～19c	3つ脚付き、注口の穴3つ
44	陶器	土瓶蓋	SE3 (9.2)	—	—	—	薩摩	18c～19c	自然釉
45	陶器	山じょか蓋	SE3 13.0	—	3.6	—	薩摩	18c～19c	重ね焼直
46	陶器	瓶?	SE3	—	—	—	不明	不明	袋物 蕎灰
47	陶器	瓶?	SE3 — (7.0)	—	—	—	不明	不明	46と同一固体か?
48	陶器	壺?	SE3	—	—	—	薩摩	18c～19c	自然釉
49	不明	不明	SE3	—	—	—	不明	不明	土師質?
56	陶器	茶瓶	SH7	—	—	—	薩摩	18c～19c	溜め口
57	陶器	茶瓶	SH12	—	—	—	薩摩	18c～19c	
58	磁器	急須	SH13	—	—	—	不明	近・現代	把手
59	不明	壺?	SH13 (17.6)	—	—	—	不明	不明	土師質?
60	磁器	碗	混合層 (11.1)	5.8	6.1	—	肥前系	18c後半～19c	広東碗
61	磁器	小杯	混合層	—	(2.8)	—	肥前?	17c前半	
62	陶器	鉢	混合層 (26.2)	—	—	—	瀬戸口・美濃	19c	
63	陶器	碗	表探	—	—	—	肥前	17c後半	
64	陶器	碗	表探	—	(5.3)	—	肥前	17c後半	
65	陶器	土瓶蓋	表探	—	—	—	薩摩	不明	自然釉
66	土師器	培塔?	表探	—	—	—	不明	不明	
67	磁器	栓?	表探	最大長 32	上部径 29	下部径 0.9	不明	近・現代	金具付き



第2表　出土遺物（瓦）観察表

No	器種	出土遺構等	法量			その他
			口径	底径	器高	
55	瓦	SH5	最大長 (7.5)	最大幅 (8.7)	最大長 (1.6)	表面にミガキ痕

第3表　出土遺物（石製品等）観察表

No	器種	出土遺構等	法量			その他
			口径	底径	器高	
50	硯	SE3	最大長 (6.4)	最大幅 (7.1)	最大厚 (2.6)	砥石を軸用
51	敲石？	SE3	最大長 4.9	最大幅 5.2	最大厚 3.2	

第4表　出土遺物（金属製品等）観察表

No	種別	器種	出土遺構等	法量			その他
				口径	底径	器高	
1	銅製品	半錢	SC1	最大長 21	最大幅 21	最大厚 1.1	
52	鉄製品	不明	SE3	最大長 5.0	最大幅 4.7	最大厚 2.0	
53	鉄製品	釘（籠）	SE3	最大長 (7.0)	最大幅 (3.9)	最大厚 (0.9)	
54	鉄製品	釘（籠）	SE3	最大長 (8.2)	最大幅 (1.8)	最大厚 (0.7)	

### 包含層等

包含層より上層は、近・現代に形成された。

遺物（第11図No60～No67）は、新しい遺物の外に、少しではあるが近世の遺物も混入している。60は18世紀後半から19世紀代の肥前系広東碗である。61は17世紀中頃の肥前系と思われる小杯である。62は19世紀台の瀬戸・美濃系の鉢である。63・64は17世紀後半の肥前系の碗である。66は近・現代であるが、用途は不明である。

## 第Ⅲ章　まとめ

調査を実施した第37地点は、地頭仮屋からみるとその東側の区画のひとつにあたる。調査地の北側に東西に延びる街路があり、それに面して神崎家武家門等も残っていることから、今回の調査地も地頭仮屋に近い郷士屋敷群の一角に位置すると思われる。

今回の調査では、主な遺構としては井戸が2基と溝状遺構が確認された。井戸は、高岡麓遺跡28地点で確認された井戸枠を持つものとは異なり、第1地点で確認されたものに類似している。溝状遺構（SE3）としているものは、その一部が確認されただけで、遺構の性格はわからないが、区画の要素を認めるとすれば、屋敷割りや街路形成も考慮してみていく必要があろう。

遺物では、17世紀代の遺物が比較的多く出土している。これは、今回の調査地が地頭仮屋に近いこともあるであろうが、麓形成の変遷を考える上では重要である。

何れにしても、調査面積が狭く、調査地の性格を解明するまでには至らなかった。





調査区全景（南西から）



SC4完掘状況（南東から）



SE3土層堆積状況（西から）



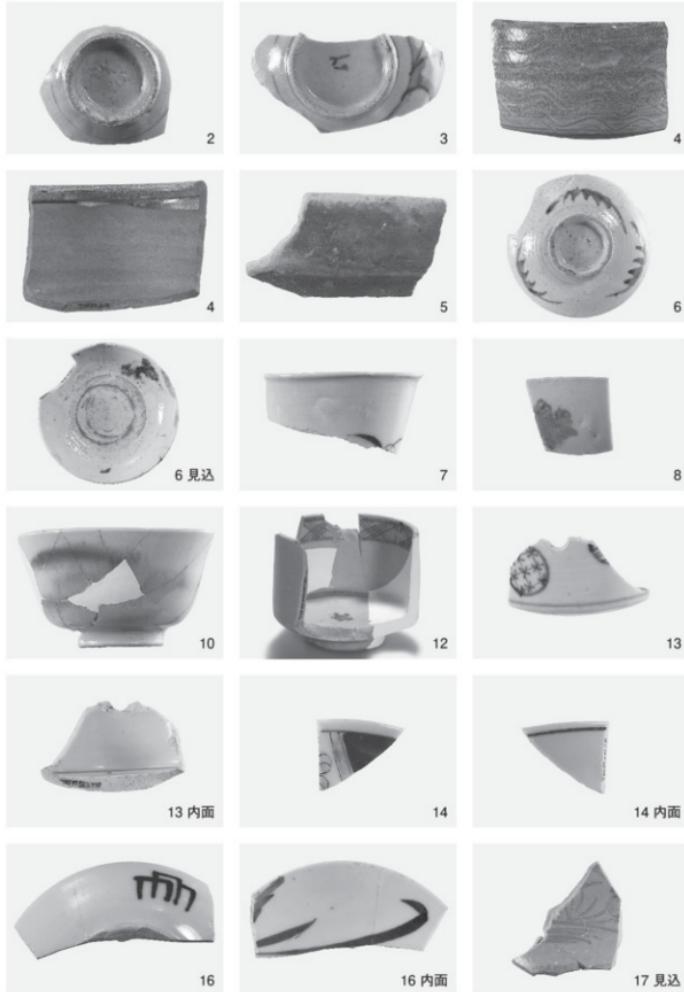
SC5半截状況（東から）



SE3完掘状況（東から）



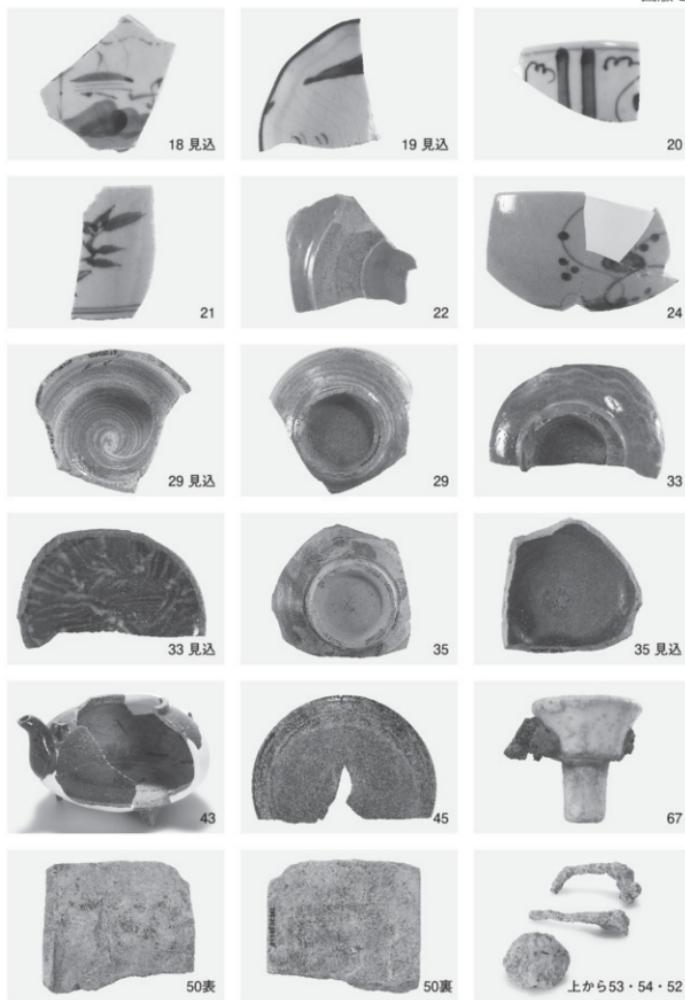
図版2



出土遺物 (1)



図版 3



出土遺物 (2)



## 報 告 書 抄 錄

ふりがな	たかおかふもといせきだい37ちてん						
書名	高岡麓遺跡第37地点						
副書名	街なみ環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書						
シリーズ名	宮崎市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第105集						
編著者名	川野 誠也						
発行機関	宮崎市教育委員会						
所在地	〒880-0805 宮崎市橋通東1丁目14番20号 TEL0985-21-1836						
発行年月日	2015年3月						
所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
高岡麓遺跡 第37地点	宮崎県宮崎市高岡町 内山字中村2869-2ほか	45201 34-006	31° 57' 31" 付近	131° 17' 54" 付近	20140203 ～20140304	68m <sup>2</sup>	道路建設 工事
所取遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
高岡麓遺跡 第37地点	散布地	近世・近代	土坑・井戸・溝状遺構	陶磁器類・銅錢 など			
要約	・近世と思われる井戸が2基検出された						

宮崎市文化財調査報告書 第105集

### 高岡麓遺跡第37地点 発掘調査報告書

街なみ環境整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2015年3月

発行 宮崎市教育委員会